

年

	校 名	学 校 長
明治29・5・22	大湊工業補習学校	高 北 良 一 市 川 竹 次 郎
29・7・27		
29・11・30		
29・12・28		
31・3・24		
31・11		
32・4・1	大湊造船徒弟学校	
34・5・3	町立大湊造船徒弟学校	
35・3・4	大湊町立造船徒弟学校	
35・4・1		
37・3・9		山 中 崔 十
37・6・11		
39・5・15		
39・9		
40・5・12		
40・11・4		
41・3・27		市 川 源 吉
41・4・1		鳥 羽 初 太 郎
41・4・17		
42・6・7		山 中 崔 十
42・8・31		大 橋 一 郎
44・7		
44・9・14		
大正4・		山 中 崔 十
7・5・29		市 川 竹 次 郎
7・9		
昭和2・		
3・4・12	大湊町立工業学校	
6・3		

譜

記 事	社 会 の 動 き
文部大臣より設立認可・修業年限3ヶ年 大湊尋常小学校を仮用して授業開始	
校舎改築竣工、開校式	高川・山田間国鉄開通
木工科・金工科設置、修業年限3ヶ年	
実習工場・製図教室新築上棟	
校長市川竹次郎、日露戦争に応召の為休職	
市川竹次郎休職満期につき退職	宇治山田市制施行
同窓会発会式 製図教室新築落成	
	宇治山田市立商業補習学校設立(山商の前身)
電灯架設	山田・鳥羽間国鉄開通
戦艦伊勢に日本丸模型を寄贈	
校章制定	
木工科・金工科を造船科・機械科と改称	
	参急電鉄宇治山田・大阪間開通

年

	校 名	学 校 長
昭和7・4・1		菊 川 万 次 郎
10・11・17		
11・5・31		菊 川 武 男
16・12・8		
17・4・1		
18・12・1	宇治山田市立大湊工業学校	
19・8		
20・4・1		黒 柳 誠 太 郎
20・7・29		
20・8・15		
21・4・1	宇治山田市立工業学校	
23・5・23	三重県宇治山田実業高等学校	井 村 貫 一 郎
23・6・22		
23・8・28		
24・1・24		
24・4・1	三重県山田高等学校河崎校舎	近 藤 不 二 彦
25・4・1	三重県宇治山田商工高等学校	井 村 貫 一 郎
27・4・1		溝 井 清 太 郎
29・4・1		乾 正 治
30・1・1		
30・4・1	三重県立宇治山田商工高等学校	
31・4・1		田 辺 武 男
31・5・		
32・2・		

譜

記 事	社 会 の 動 き
校舎改築落成式・同窓会復活発会式	
	太平洋戦争（真珠湾攻撃）
	宇治山田市立実務女学校創設（女子商業前身）
	大湊町、宇治山田市に編入
	学徒動員令
昼間部本科甲種（造船・機械科）宇治山田駅前に設置 夜間部専修科設置、修業年限2ヶ年	B29宇治山田市空襲 終 戦
竹ヶ鼻町に移転 昼間部本科に建築科設置並びに修業年限2ヶ年の専修科（建築科）附設	
学制改革により { 宇治山田市立工業学校 三重県立宇治山田商業学校 宇治山田市立女子商業学校 } 統合 場所は神田久志本町に決定	
竹ヶ鼻校舎より神田久志本校舎に移転 定時制高等学校開設	
全日制夜間課程（大湊分校）を定時制課程に変更 学区制総合制の実施により統合	
学区制再配置による。大湊分校廃止、本校へ移る	
	宇治山田市を伊勢市と改称
	三重県立伊勢高等学校創設
機械科実習工場竣工	
造船科・建築科実習工場（木造2階建）竣工	

年

	校 名	学 校 長
昭和33・4・1	三重県立伊勢工業高等学校	
33・5・15		
34・1・8		
34・3・28		
34・9・26		
36・4・1		下 村 四 郎
37・4・1		
38・5・22		
39・3・31		
40・8・		
40・12・		
41・4・1		境 貞 一
41・8・18		
43・5・28		
43・10・8		

譜

記 事	社 会 の 動 き
看板だけ三枚独立 { 三重県立伊勢工業高等学校 三重県立宇治山田商業高等学校 三重県立伊勢実業高等学校 }	
校章決定	
校歌発表会	
管理棟（木造2階建150坪）竣工、工業は2階、商業は階下を使用	
伊勢湾台風により機械実習工場全壊、その他大被害	
電気科・工業化学科設置	皇学館大学開学
完全分離独立、山商新校舎へ移転	
電気科・工業化学科実習実験室（鉄筋コンクリート2階建）竣工	
機械科 鋳造・木型・仕上工場増改築竣工	東京オリンピック（10月）
普通教室（12教室、鉄筋コンクリート2階建）竣工	
普通教室（12教室、鉄骨造2階建）竣工	
運動場拡張整備	
新管理棟（鉄筋コンクリート3階建）竣工開館	
創立70周年記念式典・校舎新築落成式	